

- 国際ファッション専門職大学: ファッションクリエイション学科
- 2023年卒業生: 浜名悠
- 留学先: イギリス
- 大学名: Central Saint Martins
- コース名: MA Fashion Womenswear (修士号/大学院)

## 第10回目校費留学レポート目次

- Major Project Part 1
- TOGA London Fashion Week

## Major Project Part 1

今月は、卒業プレゼンテーションに向けてデザイン背景を説明するMajor Project Part 1の制作を進めました。このプロジェクトでは、根拠となる文章およびグラフィックと、編集されたリサーチ、進行中のデザイン開発が求められています。

今月は先月に引き続き、Animismについての研究を進めて自身のプロジェクトの根拠となる声明文を作成することに多くの時間を費やしました。



# HAMANA

“私が生まれ育った東京は、日本の文化と異国の文化が混在するコンクリートジャングル。グローバル化が進行した東京で私が感じたことは伝統文化の衰退です。渡英した際、自身のアイデンティティの問いと直面するきっかけとなりました。急速で発展を遂げている現代社会で幼少期の頃から感じる伝統文化の衰退は、日本で生まれ育った自身にとってアイデンティティの喪失や文化の均一化を引き起こす文化的な課題だと思えます。

しかし、古来の日本から受け継がれている精神性が現代の私たち家族の生活には宿っています。それが自然物や現象、無生物に霊や意識、魂が宿るとする信仰であるアニミズムです。私は自身のアイデンティティを定義するためにアニミズムについて長い間研究をしました。なぜなら幼少期から親しんだアニメや漫画といった戦後の日本文化にはこの概念が深く根付いているからです。

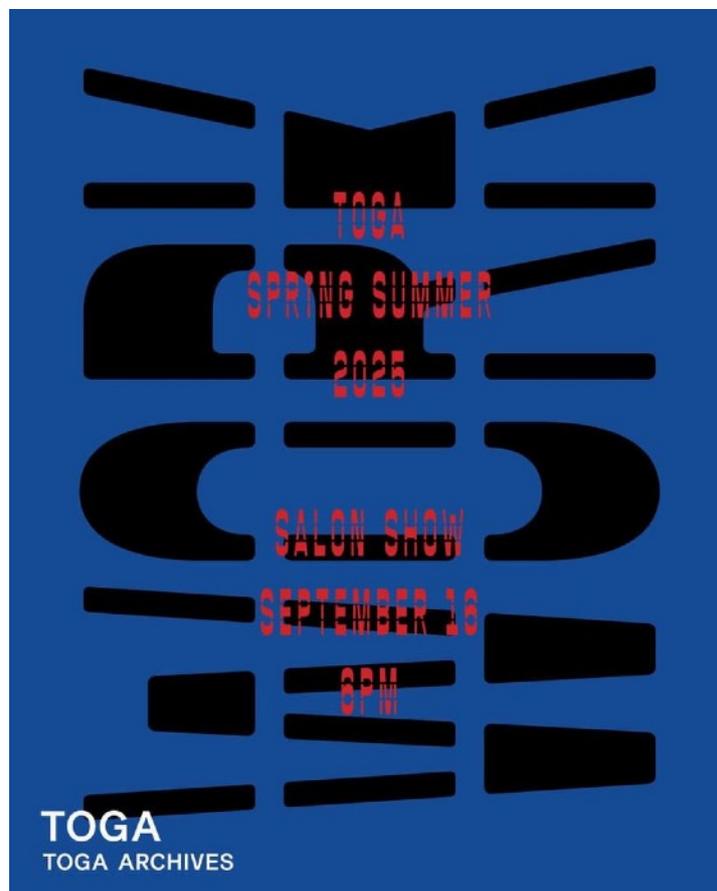
特に宮崎駿によるGhibliの作品からは強い影響を受けて今の私は形成されています。太古の文明や人間と自然との関係性と社会問題が描かれた壮大なファンタジーには、太陽、月、風、水、土や動植物、また家の中にいたるあらゆるものにも神が存在するとされる八百万の神の神秘的な感性が宿っているように感じます。そして彼の作品にも現れる日本の装いの文化において、歴史的な伝統衣装や文様のバラエティと色彩感覚は、まさに私も日本で経験してきた天災や四季の変化といった太古からある大いなる自然界の力と人間の関係性から生み出た産物です。

そしてこのコレクションでは、父のファッションスタイルの影響によりミリタリーを中心とした機能的なアクティブウェアから私はインスピレーションを受けています。戦争の機能の為に自然環境が備わっているそれらのウェアは私の母国の豊かな自然体験と信仰が宿ったものへと昇華されます。そして敗戦国としての戦後の日本文化に心を救われる想いで幼少期から生きてきた私にとってミリタリーウェアを脱構築、リデザインすることは地球平和に対する祈りを意味しています。

私のクリエイションではアニミズムの概念を社会構築における新たなパラダイムとして再解釈します。そして日本文化の新たな形を通して、人間と地球の関係性の神秘を感じて欲しいです。”

この文章を作るために基礎となるプロジェクトの目標、プロジェクトの個人的な意義と社会的な意義、どのような方法を用いるか明確にすることから始めました。現在は下書き段階なので、このコレクションの根拠となる文章を最終的にまとめるReadability（読みやすさ）に対しても考えていく予定です。これにはフォントの選択、間隔、色、使用する単語や文章の側面に細心の注意を払う必要があります。文章も一つの表現媒体なので、自身のキャラクターとビジョンが伝わるような文章と画面構成ができたらと思っています。

## TOGA London Fashion Week



[https://www.instagram.com/p/C\\_2mpeUJms-/?igsh=MW5vYXF0a28xa2N1cQ==](https://www.instagram.com/p/C_2mpeUJms-/?igsh=MW5vYXF0a28xa2N1cQ==)

また今月はロンドンを拠点とするブランド TOGA の SPRING SUMMER 2025 READY-TO-WEAR のファッションショーのバックステージをアシストさせていただきました。一流のファッションモデルの方々との交流、ショーを作るための会場設備、スタッフやチーム構成、ドレッサーとしてのLookの着脱、服の仕立てやディテールの観察、ショーのライブパフォーマンスなどプレゼンテーションの現場で働かせていただくことで、多くの学びがありました。自分もチームを率いてグローバルにコレクションを発表できるようキャリアを築いていきたいです。下のLookは私が担当させていただいたものになります。





## 今月を振り返って

今月は自身のプロジェクトの基礎ができたことによって、デザインに取り組みやすい環境づくりができたと思っています。Major Project Part 1の締め切りは10月なので、来月は初期のデザイン開発に取り組んでいく予定です。

以上、8月分のレポートとなります。